

北海道医師会役員就任ご挨拶

理事就任ご挨拶

理事

旭川医大医師会

旭川医大医学部附属病院皮膚科教授

飯塚 一



このたび、前理事の八竹 直先生が旭川医大
長に就任されたため、医育ブロックから、その後
任として北海道医師会理事に選任されました。医
育機関選出の理事ということではありますが、正
直、経験不足で何も分かりませんので、よろしく
お願い申し上げます。

私は昭和48年、北大49期卒業です。この期は、
学生紛争のため、私を含め大部分の学生が9月卒
業になっています。卒業後、三浦祐晶教授の主宰
する皮膚科学教室に入局させていただき、翌年、
米国マイアミ大学に派遣されました。マイアミ大
学の皮膚科は当時、米国でも有数の大きな教室で
したが、自分は、安達健二先生、Ken Halprin教
授の下で、乾癬表皮のadenylate cyclase-cyclic
AMP系の研究を行っていました。残念ながらお
二人ともすでに故人となられましたが、今から思
うと、1年生で何も知らない自分を、よくあそこ
まで指導して下さいましたと感謝に堪えません。

当時は細胞内情報伝達といえば、cyclic AMPか
cyclic GMPだけで、この2つで全ての病気を説
明しようという信じられないような風潮の中で、
研究がなされていました。protein kinase Cでさ
え、まだ発見以前の話です。近年の細胞内情報伝

達系の複雑さをみると、驚くと同時に、今の若い
研究者はこの伝達マップを全部覚えるだけでも大
変だろうと同情してしまいます。ただし、実はそ
れほど怖れる必要はないので、細胞の方で、長い
進化の過程で勝手に情報伝達系を、適宜、選択し
てくれており、適切な実験が答えを出してくれま
す。

マイアミには3年半ほどおりましたが、その
後、北大に助手として戻り、その4年後、大河原
章教授の主宰する旭川医大皮膚科学教室に講師と
して招かれました。そして、その4年後には大河
原教授は三浦祐晶教授の後を継いで北大に戻ら
れ、その後を、小生が継いで現在にいたっていま
すから、速いもので、教室を継いで、もう17年
になります。

自分は、ずっと大学にいたため、医療制度全般
についてはあまり詳しくなく、お役にたてるかど
うか危惧しています。大学も、チュートリアル教
育、コアカリキュラム、クリニカルクラークシッ
プなどの教育改革、病院の経営改善、リスクマネ
ージメント、来年から始まる独法化、学生の卒業
スーパーローテートなど、問題が山積していま
す。旭川医大も久保前学長から八竹新学長のも
と、石川睦男病院長を含む新しい体制で、困難な
時期に船出しようとしています。

いずれにしても、北海道の医療は、おそらくこ
れから大きな激動期を迎えることになると思い
ます。道医師会を中心に、地域医療を守り、ソフ
トランディングができるよう、そして北海道の3
大学から、これからのいい医師が巣立つよう、環
境整備に少しでもお役にたてたらと願っていま
す。どうぞよろしくお願い申し上げます。

お知らせ

北海道医報ファイルの送付について

北海道医師会広報部では、北海道医報を整理・
保存するためのファイルを作成しております。
ご希望の向きは下記までご連絡下さい。無償に
てお送りいたします。

記

申込先：北海道医師会事業第二課

〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目
TEL(011)231-1725 FAX(011)252-3233